

# 第1講義

# コミュニケーション学



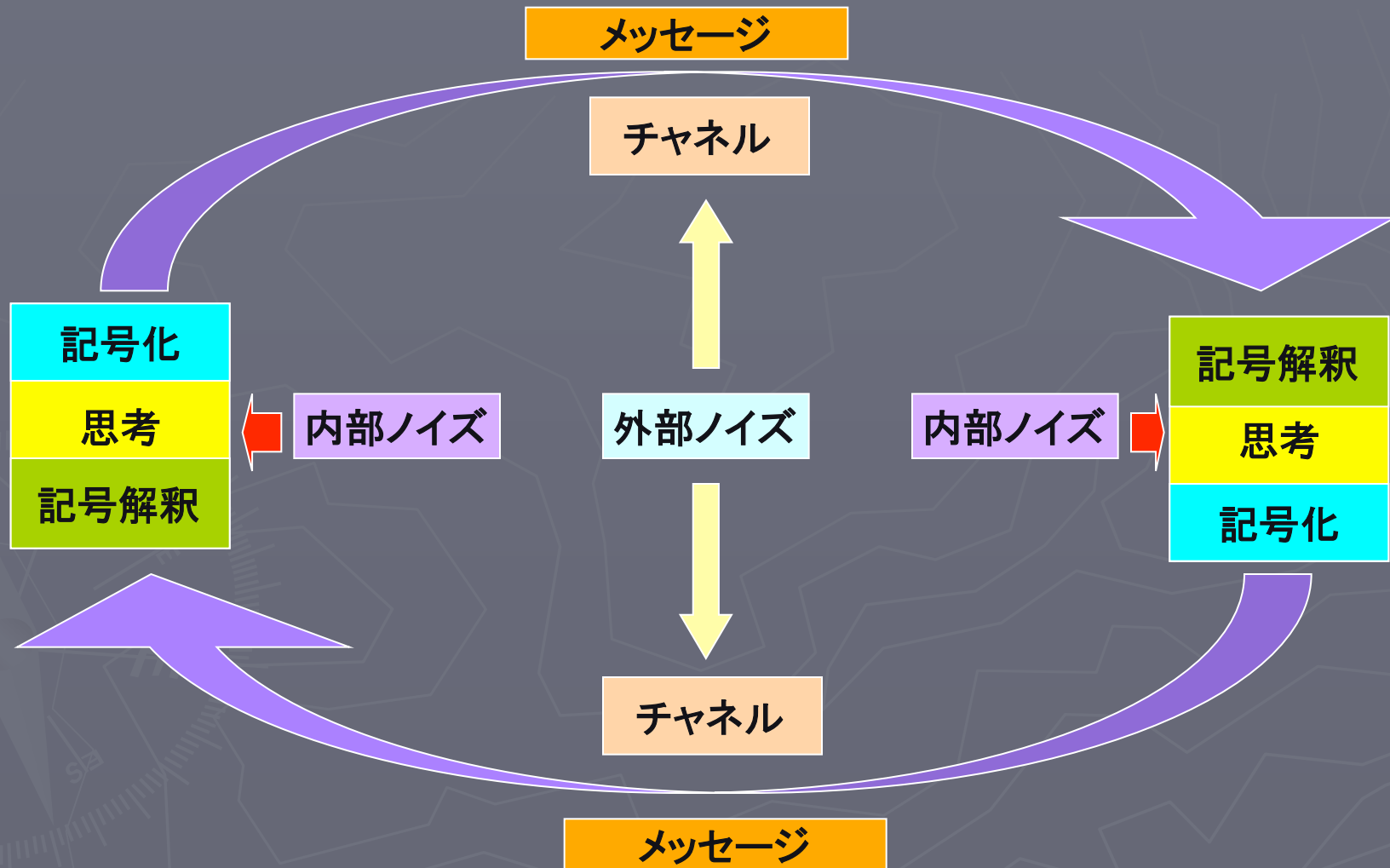
# コミュニケーションの定義

- ▶ 情報・知識・感情・意志の伝達・交換の過程
- ▶ 意志疎通による親密な人間関係構築の過程
- ▶ 情報の共有化の過程
- ▶ 不確実性の減少

# コミュニケーションの特徴

- ▶ 相互作用の過程
- ▶ 不可避性
- ▶ 不可逆性
- ▶ 動的
- ▶ 適応の過程
- ▶ 記号を用いる

# 対人コミュニケーションの相互作用モデル



# コミュニケーションの構成要素

## ▶ 送信者・受信者＝コミュニケーター

- 記号化＝送信スキル
- 記号解読＝受信スキル

## ▶ メッセージ

## ▶ チャンネル

- 言語
- 非言語

## ▶ ノイズ

- 外部
- 内部

▶ 意味的ノイズ＝内包的意味

▶ 心理的ノイズ＝態度、信念、価値観、先入観

# コミュニケーションのレベル

- ▶ 個人内コミュニケーション
- ▶ 対人コミュニケーション
- ▶ 集団(内・間)コミュニケーション
- ▶ 組織(内・間)コミュニケーション
- ▶ マス・コミュニケーション
- ▶ 国際コミュニケーション
- ▶ 応用コミュニケーション

# コミュニケーション研究の歴史的発展

- ▶ アリストテレス、プラトンなど、古代ギリシャにおけるスピーチ研究(レトリック)から始まる
- ▶ 1900年代前半はマスコミュニケーション研究(Lazarsfeld)
- ▶ 1940-50年代は対人影響・態度変容の研究(Hovland)
- ▶ 1960年代は政治的コミュニケーション
- ▶ 1970年代はマスメディアの影響研究(Gerbner)
- ▶ 1980年代は異文化コミュニケーションの研究
- ▶ 1990年代は国際コミュニケーションの研究
- ▶ 2000年代におけるメディアエイトッド・コミュニケーションの研究
- ▶ これからは医療・健康コミュニケーション、世代間コミュニケーション

# コミュニケーション学について

- ▶ コミュニケーション学はアメリカ特有の学問領域であり、日本のコミュニケーション学とは異なる
- ▶ 日本のコミュニケーション学は、旧教養部制度に由来する
  - 教養部の廃止に伴い、文系と理系の教養科目を教える教員が行き場所を失い、彼らを収容する学部が必要となった
  - 「コミュニケーション学部」「国際コミュニケーション学部」「異文化コミュニケーション学部」などが文系教員の収容部局として誕生
  - そのため、コミュニケーション関連学部教員の専門は、文学、史学、哲学、語学教育、言語学、社会学、心理学、政治学など、典型的な共通教育科目担当者の専門である



# コミュニケーションと他の学問

- ▶ コミュニケーション学は心理学、社会学、人類学、言語学、哲学など他学問と隣接的な関係にある
- ▶ 例えば、対人コミュニケーションは心理学的で、マス・コミュニケーションは社会学的な性格がある
- ▶ コミュニケーション学は語学教育とよく誤解される
  - 教養部の英語・第2外国語担当者がコミュニケーション学部構成員の多数を占めている理由もある
- ▶ コミュニケーション学はアメリカ特有の学問であり、日本の大学では「純粹」なコミュニケーション専攻はなく、大学院で専修することはできない

# コミュニケーションの研究法

- ▶ レトリック分析
- ▶ 談話分析
- ▶ 内容分析
- ▶ クリティカル・スタディーズ(critical studies)
- ▶ 民族史法(ethnography)
- ▶ 社会科学的手法
  - 実験法
  - 観察法(自然・フィールド観察法、実験観察法)
  - 調査法(質問紙、面接、電話、ネットなど)
- ▶ マルチレベル分析(個人・ペア、個人・集団など)
- ▶ トライアングレーション法(マルチメソッド法)

# 心理学とコミュニケーション学の違い

- ▶ 心理学は**個人**が焦点
- ▶ コミュニケーション学は送信者と受信者の**相互作用**が焦点
- ▶ 心理学は**個人の特性**を測定しようとする
- ▶ コミュニケーション学は**個人間の相互作用・交渉過程**を観察しようとする
- ▶ 心理学は個人の行動を予測し、**普遍性**を見出そうとする
- ▶ コミュニケーション学はより**システムの**に考え、個人たちがおかれている**周辺状況=コンテキスト**を重視、行動の予測は**個人+コンテキスト**である
- ▶ コミュニケーションは**普遍性**よりも**当事者特有の**

# 社会的スキルの研究

- ▶ 心理学的アプローチ
- ▶ 「社会的スキル尺度」を用いて、測定する
  - 例： 私は自己主張が得意である 5 4 3 2 1
- ▶ 社会的スキルは個人の普遍的・恒常的な特性であり、相手や状況をあまり問題にしていない
- ▶ 個人の「グローバル」な特徴として理解する

# 社会的スキルの研究

- ▶ コミュニケーション学は「社会的スキル」とはいわず、「コミュニケーション・コンピテンス」と呼ぶ
- ▶ スキルは行動のみ、コンピテンスは認知・情動・行動の総体である
- ▶ コミュニケーション・コンピテンスとは、所与の状況において、特定の相手に対して適切かつ効果的なコミュニケーションが行える能力と定義する
- ▶ この定義には、コンテキストとして、「所与の状況」および「特定の相手」という条件が設けられる
- ▶ すなわち、何が適切か効果的かはその状況や相手による
- ▶ コンピテンスは、最終的に当事者間で何がコンピテントかを共同で暗黙の了解として発生する概念である

# まとめ

- ▶ コミュニケーション学は米国においては独立した学問領域として認知されている
- ▶ 日本においては学問よりも、文科系学問をまとめるための学部名称という存在
- ▶ 心理学は個人を分析単位とするが、コミュニケーション学はコンテキストと相互作用を研究の視点に入れる
- ▶ コミュニケーションを研究するには心理学的手法だけでは不足